

声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話 (058) 262-0231 FAX (058) 263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2015(平成27年)7月1日発行 vol.236



如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会委員長

河村 信昭

待ちに待った岐阜教区・別院の大遠忌の期日が決定しました。明年平成二十八年五月二十八・二十九日の二日間、専如門主さまご親修でお勤まりになります。山門の前に法要修行を告げる高札が掲げられ、いよいよ大遠忌円成に向け皆さまとともに全力を傾注してまいりたいと存じます。

また、ご本山におきます伝灯奉告法要の期日が決定されました。この法要は、親鸞聖人があきらかにされた「浄土真宗のみ教え」が専如上人に伝えられたことを仏祖の御前に告げることもみ教えが広く伝わることを願うものです。明年十月一日から十一月にかけて三十二日間、翌二十九年三月から五月かけ四十八日の八十日間です。

それにもない策定されました宗門総合振興計画の趣旨説明のために総局巡回が六月二十九日に開催されました。その計画は、昨年六月六日法統継承式に発布されたご消息における「自信教人信」のお言葉をいただき、現代の苦悩とともに背負い、御同朋の社会をめざして皆様と歩んでまいりたいと思います」とのお心を体し、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることでできる社会の実現に貢献する使命のもと、その実現に向かって三つの基本方針が掲げられました。基本方針1は「仏教の精神に基づく社会への貢献」であり、基本方針2は「自他共に心豊かに生きる生活の実践」とされ、基本方針3は「宗門の基盤づくり」と3つの柱が示されました。

ご開山聖人のお流れをいただくものとして、仏教そして浄土真宗が「よりよい精神文化の創造のためにどう貢献できるか」という視点に立ち、現代社会に新しい価値観を示すためには、お念仏をよるこぶものが、念仏が聞こえる日常とする生活が必要であり、私たち一人一人が念仏申す生活を実践し、その輪をひろげてゆくためのものです。このことは、今大遠忌を修行させていただく岐阜教区・別院にとりましても大切なことと思います。

岐阜教区・本願寺岐阜別院 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 並びに岐阜別院本堂修復・ 香光殿新築落成慶讃法要 修行日決定

平成二十八年五月二十八日(土)・
二十九日(日)

平成二十四年から始動いたしました「岐阜教区・岐阜別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業長期計画」は、皆様のご協力により、香光殿の竣工、本堂修復工事など滞りなく遂行され、別院境内も来るべき大法要をお迎えする準備がいよいよ高まってまいりました。

この度、ご門主様御親修のもと、平成二十八年五月二十八日(土)、二十九日(日)の両日、「岐阜教区・本願寺岐阜別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要 並びに岐阜別院本堂修復・香光殿新築落成慶讃法要」が修行されることが決定されました。

高札立札式行われる

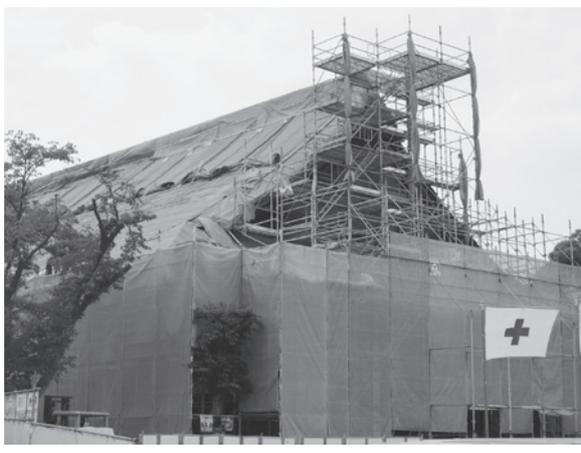
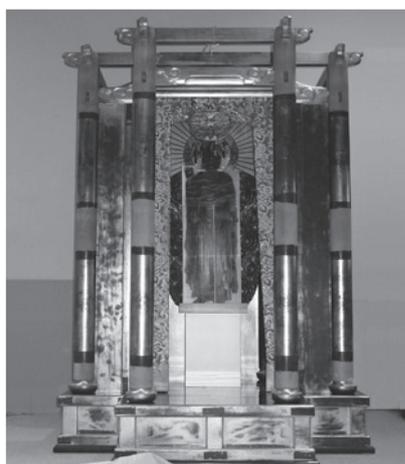
五月二十六日(火)「大遠忌法要」高札の立札式が行われました。



輪番役宅起工式



京都・小堀仏具店にて修復中の本堂
阿弥陀様宮殿(くうでん)



修復中の本堂

高札は高さ約四メートルで本門前に設置。修行日とともに「第二十五代専如門主御親修 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」と大書されています。【撰斐組 長寶寺 筑間宗融氏書】

立札式では関係者らが高札を除幕。横山善道法要委員長が「法要まで一年となりましたが、皆様のご協力を賜り決意新たに精進していく所存であります」と挨拶しました。

法要委員会といたしましては、この法要を機縁として、お念仏の輪が大きく広がるよう、『ごあ 行こう お寺』をテーマに、法要の詳細や、参拝者の受け入れ態勢、記念行事の開催等、具体的な準備を進めてまいります。

ご寺院、ご門徒の皆様におかれましては、本堂修復、境内地整備が進みますように、一層のご協力をお願いいたします。来年の大法要にはそろってご参拝ください。



本門前に建てられた高札

岐阜教区・本願寺岐阜別院
親鸞聖人750回大遠忌法要
並びに岐阜別院本堂修復・
香光殿新築落成慶讃法要

第二十五代専如門主御親修

平成28年
5月28日(土)
～29日(日)

法要・庭儀・帰敬式

瓦懇志についての御礼

1,180件7,904,220円の
御進納をいただいております。
皆様のご協力有難う
ございました。



今後とも永代経(院号)懇志をご進納いただきますようお願いいたします。



岐阜別院に永代経(院号)懇志を納めていただいたかたの永代経法要が、四月二十一日(火)午前十時より新たに完成した香光殿本堂においてお勤めされました。本堂正面には法名軸を掲げ、河村輪番の導師のもと賑々しくお勤めいたしました。

お勤め後は、花月 真氏(滋賀教区山東組西来寺住職・オペラ歌手)より記念講演をいただき、昼には岐阜別院門徒会によるお齋が振る舞われました。

この永代経法要は毎年進納者にご案内しお勤めいたします。

永代経法要を勤める

永代経(院号)懇志進納者

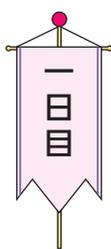


キッズサンガ事例報告として揖斐組の西光寺・光照寺合同サマースクールを取材しました。両寺は同じ小学校の校区内にあり、年毎に交代で会所を担当しながら開催しています。参加してくれる子どもは60名以上。総代さんや婦人会の皆さん、親御さんの力を借りながら、一泊二日のサマースクールを実施しています。

キッズサンガ 事例報告

西光寺・光照寺サマースクール日程

15時	集合 開校式 お勤め練習会
16時	お風呂 かき氷
19時	夕食
20時	演劇
21時	就寝準備
6時	起床 ラジオ体操 お勤め
7時	朝食
7時30分	工作 缶バッチづくり
9時30分	大シャボン玉づくり
10時30分	閉校式 解散



開校式では自己紹介ゲームをします。でもちよっぴり緊張気味…。その後すぐにお念珠の持ち方、お経本の扱い方などの作法と『お正信偈』のお勤めを練習します。お勤めの時間はお

お勤めの時間はお



よそ20分間。正座は大変そうですが、練習が終わった後の達成感からか、とても安心した表情をみせてくれます。夕食は婦人会の皆さんお手間

夕食は婦人会の皆さんお手間



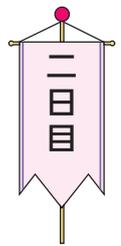
入りのカレーライス。食前食後の言葉の意味を考えながらいただきます。食べ物が入るまでにはさまざまなお話を聞いて、

普段は苦手な食べ物も残さず食べようと努力してくれます。もっとも、大勢で食べれば味も格別。

門徒推進員でもある現役の保育士さんが、仲間の保育士さんと劇団を結成し、仏教童話を織り交ぜた寸劇を披露してくれま
す。手遊びやリズム体操を取り入れ、子どもたちの心がかっちりキャッチして、大いに盛り上がる恒例のイベントになっています。



本堂に蚊帳を吊っての就寝準備。学年性別ごとに分かれた蚊帳のグループでは、ようやく他校のお友達とも距離が縮まり、今夜ばかりはみんな夜更かしです。1人2人と寝ていきますが、中には明け方までゴソゴソしている子もいます。



起床後はラジオ体操と朝のお勤め。昨日の練習の通りに『お正信偈』をお勤めしますが、昨夜の夜更かしのためか、ラジオ体操とお勤めはみんな半分夢の中です。お勤めが終わった頃によくやく目がさめてくるようです(笑)。

クラフト工作では、自分で書いた絵を缶バッチにしました。バッチばかりでなくマグネットにも変更できます。いいお土産



になったかな？工作の後は、自由研究のヒントにもなりそうな、特大シャボン玉をみんなで飛ばしました。閉会式・解散時間を過ぎてても特大シャボン玉に未練がありそうな子どもたち。またいつでも本堂の仏様のもとに帰ってきてくださいね。



「生死の苦海ほとりなし

ひさしくしづめるわれらをば

弥陀弘誓のふねのみぞ

のせてかならずわたしける」

『教行信証』（註釈版聖典五七八頁 高僧和讃 龍樹菩薩七句）

このご和讃は親鸞聖人がお示しになられた高僧和讃の一首で、龍樹菩薩さまを讃えられた和讃です。

本日は私の体験から「弥陀弘誓のふねのみぞのせてかならずわたしける」というところを中心にお味わいをさせていただきます。

まだ住職になり間もないとき、あるご門徒さんが五三歳で亡くられました。その方は、ご長男でしたがが独り身でしたので、故人のお姉さんが喪主を務められました。

お通夜、お葬式と勤めさせていただいて、中陰のお参りをしにご当家にお伺いした時のことです。

ご当家は、お姉さんご夫婦とその息子さんご家族も一緒に住んでみえて、もうすぐ三歳になる女の子のお孫さんがみえました。二十七日、三十七日ともご家族揃ってお参りしてください、このお孫さんも一緒ににお参りしてくださいでしたが、お勤めが始まるとお仏間の後ろの方で、おもちゃで遊んだり、お昼寝をしたりしているだけでした。

私は「まだ小さいし、この場に一緒にいてくれるだけで有難いこと」と思い、何も言いませんでした。

しかし、四七日のお参りに伺い、正信偈のお勤めが終わると、聞き慣れない声で私のお念仏に合わせ「ナンマンダブ、ナンマンダブ」とお念仏が聞こえてきました。驚き、後ろを振り返ると、お孫さんが

合掌をし、お念仏をしていました。

私は嬉しい気持ちと、有難い気持ちになり、より大きな声でお念仏させていただいたことを、今でもはっきりと覚えています。

あとで、ご家族に聞くと誰かが教えられたわけでもなく、もちろん私も教えていません。しかし、お孫さんは、まだ片言でしたがお念仏をされるようになりました。

ご和讃の後半部分は

「弥陀弘誓のふねのみぞ、のせてかならずわたしける」とあります。

阿弥陀さまは、生死の苦しみから逃れられない私のために、ご本願を立ててください『我にまかせよ、我が名を称えよ。必ず浄土に生まれさせ、仏にならしめん』と、「南無阿弥陀仏」という声の仏さまとなり私におはたらきくださっています。

そして、阿弥陀さまのご本願を船に譬えるなら、遠くまで泳げる人も、全く泳げない人も関係なく「海の対岸」つまりお浄土までたどり着けない私たちを、一手に引き受けて乗せてくださる。その船に乗れば、自ら漕ぐ必要はありません。そのようにお念仏申しつつ、ただ生死の苦の解決方法を阿弥陀さまにおまかせするのですと、親鸞聖人はお示しくされました。

阿弥陀さまのご本願の詰まったお念仏のはたらきは、このお孫さんにも届いてくださって、お孫さんをお念仏する身にしていただきました。

私はお念仏とは「私がしている」のだと思っていました。それは間違いでした。すべて阿弥陀さまが用意してください、阿弥陀さまの願い（こころ）が私にはたらきとして届き入り満ちて、私の口からこぼれ落ちてくださっていたのが「南無阿弥陀仏」のお念仏でした。

私はどう頑張っても生死から逃れることも解決することもできず、苦しまなければなりません。そして、私は孤独の中にいました。

しかし、阿弥陀さまはその苦しんでいる私のために「苦勞くださり、ご本願を成就してくださいました。」

その阿弥陀さまのおところは「あなたを決して一人にはしない、どうあっても救う」と、私に何度も何度も喚びかけ、そのはたらきが届き「南無阿弥陀仏」のお念仏となって私の口から出てきてくださっていました。

つまり、阿弥陀さまは私をすでに本願の船に乗せてくださっていました。

阿弥陀さまから私たちに向けられたお救いは、まるで病の子どもを抱えた親が、気を緩めることなく夜通し看病するかのよう、この私のいのちにはたらき、寄り添い続けてくださっています。今のこの一瞬を阿弥陀さまと共に歩ませただけのこの身をあらためて思いますと、我がいのちでありながらも尊いこと、頼もしいことであると阿弥陀さまのおはたらきを味わわせていただきました。

岐阜教区 黒野組

専宗寺 大熊 秀基

法統継承について

昨年六月、第二十四代即如ご門主がご退任され、第二十五代専如ご門主昭和五十二年生が法義の伝統を継承したことを表明する「法統継承式」がご本山本願寺で営まれた。今回はその法統継承における一連の儀礼について振り返ってみたいと思う。

昨年六月五日午後三時半から、ご本山御影堂で「第二十四代即如門主御消息発布式」が行われた。即如ご門主三十七年のご教導に感謝しようと、全国から僧侶、門信徒など約六千人の参拝者が集った、御影堂は満堂、阿弥陀堂や境内に設けられたテント席ではモニターを見ながらの参拝となった。お裏方さま、新門さま、新裏方さまご着席の後、即如ご門主が入堂。お念仏された後、外陣正面に進まれ「退任に際しての消息」を発布された。引き続き、ご消息を拝受した園城義孝浄土真宗本願寺派総長(当時)がご消息を拝しての挨拶を述べた。発布式に続いて御影堂において即如ご門主の調声で日没勤行(正信偈)が行われ、その後、即如ご門主として最後の御真影(親鸞聖人像)のお厨子の扉を閉められる「御親閉扉」が行われた。

そして両堂閉門後の午後六時十五分頃からは、御影堂で「御譲渡式」(非公開)が厳粛に行

われ、即如ご門主から第二十五代門主に就任される専如新門さまに「御鍵」、「御印」、「御衣体」がご譲渡された。お裏方、新裏方さまがご着席の後、ご門主と新門さまが入堂され御真影の前で向かい合う形で御譲渡席に着座された後、「御鍵」「御印」「御衣体」が新門さまに手渡された。「御鍵」は御真影が安置される御影堂のお厨子の鍵。「御印」は宗務を治められるのに必要なご門主の公的な印鑑。「御衣体」はご門主が着用される紫色の法衣。

御譲渡式から一夜明けた六日。六時から専如ご門主の調声で晨朝(じんじょう)が勤められた。ご門主として初めてのご出座に参拝しようと、御影堂に入りきらないほどの参拝者(約三千人)が訪れた。阿弥陀堂では、ご門主、前門さまが尊前でご焼香され、讃仏偈のお勤めが堂内に響きわたった。御影堂では、ご門主が御真影のお厨子の扉をお開けになる「御親開扉」が行われ、両門さまがご焼香、正信念仏偈が勤められた。その後引き続きご門主として初の帰敬式が行われ六十人が受式した。

午前十時からの「法統継承式」の一時半以上前から境内は多くの参拝者であふれ、堂内への案内開始とともに御影堂、阿弥陀堂は満堂。白州に設けられた参拝席も瞬く間にいっぱいとなった。法要直前には中継モニターが設置された安穩殿二階や聞法会館一階も参拝者でいっぱいとなり、約八千人が式に臨んだ。私も安穩殿

二階の入口付近でお参りさせていただきました。

午前十時からは第一部の「法要」。御譲渡式で継承された紫の色衣に身を包まれたご門主、紫紺色の前門衣体を着けられた前門さまが入堂され、阿弥陀堂で「無量寿経作法第二種」(大無量寿経)の四十八願を中心としたもので法灯継承に当たり新たに制定)、御影堂で「廣文類作法第二種」(『教行信証』の「総序」と正信念仏偈などで構成されたもので同じく新たに制定)が勤められた。引き続き行われた第二部「式典」。ご門主が初のご消息を発布された。続いて、ご門主と、前門さまが「お言葉」を述べられた。その後、ご消息を拝受し、園城総長(当時)が挨拶した。昨年の御正忌報恩講法要でご門主が「伝灯奉告法要」についての消息」を発布され、平成二十八年および二十九年に、ご本山において、法義継承を仏祖の御前に奉告し、浄土真宗のみ教えの隆盛と宗門の充実発展とを期して、「伝灯奉告法要」がおつとまりになることが決まった。ぜひとも参拝させていただきましょう。

※ご消息やお言葉については、過去の本願寺新報や宗報等をご覧ください。

岐阜教区勤式練習会副理事長

東陽組善教寺

所 浄伸

『御同朋の社会をめざす運動(実践運動)』岐阜教区重点プロジェクト

～さらなる運動の推進に向けて～

岐阜教区委員会

実践目標 「信心の社会性」～念仏者として生きる～

私たちは、「本宗門は、その教えによって、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するものである」(『本願寺派宗制』)を基本理念に、過去3年間具体的な課題をかがね重点プロジェクトとして運動を推進してまいりました。

岐阜教区は当初、「『信心の社会性』～社会環境とかけがえのない“いのち”のかかわりに生きる～」を教区実践目標にかけ、具体的な課題は各組・各寺院に委ねる形で運動をスタートさせました。その結果全体として、従前の基幹運動の成果と課題を継承しながら、それぞれが独自性を持った課題を設定し、それらが実践

され継続されています。

その内容は、キッズサンガの推進、連続研修会の実施、ピハークラ活動、教化団体の拡充・研修、葬儀儀礼への対応等、従来の運動推進に加え、災害支援、地域社会との連携によるNPO活動、新たな法座・講座活動の拡充、お寺の情報発信、お寺と門信徒との関係の見直し等々、多岐にわたる課題が実践されています。

今後の運動展開については、巷間期待されている宗教・宗教団体の社会貢献や公共性について意識しつつ、その貢献する領域については、数多くの社会問題から目を背けることなく、念仏者としての立場にたって社会実践を推進していきたいと考えます。

2015年はアジア太平洋戦争終結から70年の節目の年です。内閣主導で安全保障法制が整備される中、平和を希求する憲法問題にも無関心ではおれません。また、ヘイトスピーチに象徴されるような新たな差別問題も起き、経済格差の社会で私たちの生き方が抑圧、分断される状況があらわになっています。

私たちはこのような日常を、より意味に満ちた人生とすることができるよう、教団の歩みと運動を振り返りながら、み教えに問い聴き続けていきたいと思えます。共に宗門人としての共通の課題を担い、各組・各寺院の独自性を尊重し、継続的な運動推進に努力していきたいと思えます。まずは気づいたことを、出来ることから始めましょう。

新職員紹介

四月一日付で臨時勤務員が入所いたしました。よろしくご指導いただきますようお願いいたします。

吉田 京子(中川北組圓勝寺門徒)

退職者報告

二月末日付で退職いたしました。
巖后美乃里(臨時勤務員)

お知らせ

岐阜別院『黎明講座』

- ・期日 八月一日(土)～五日(水)
- ・時間 午前六時半～八時まで
- ・場所 本願寺岐阜別院 香光殿 本堂
- ・講師

- 一日 国立民族学博物館助教 川瀬 慈氏
- 二日 中央仏教学院 講師 桑原 昭信氏
- 三日 フリージャーナリスト 高橋 恒美氏
- 四日 前教学研究所上級研究員 三栗 章夫氏
- 五日 本願寺派布教使 鈴木 善隆氏

岐阜教区『僧侶研修会』

- ・期日 八月三日(月)～四日(火)
 - ・場所 岐阜教区教務所 香光殿 研修室
 - ・日程 三日 三栗 章夫氏
 - 四日 鈴木 善隆氏
 - ・現地研修 十月七日(水)
- 研修先については調整中

編集後記

諸行無常。時代が変わる。それを追いかける。そこに新たな時代が生まれる。そのことは素晴らしい道である。私たちはそうやって歩んできたのだろう。教区も新しい香光殿が完成し、本堂修復へと記念事業が遂行され、新たな歩みが始めている。だからこそ今、その行き先は……それを支えていくのださるは……キッズサンガ、様々な法要、事業等のその目的は何か。親鸞聖人750回大遠忌法要を厳修させていただくことは、再認識できる無二のご縁であると思ふ。

「東日本大震災支援金」宗派受付窓口

郵便振替
〇一〇六〇一八一〇〇〇
加入者名
浄土真宗本願寺派 宗務所
通信欄に「東日本大震災支援金」とご記入ください

「ネパール地震災害義援金」宗派受付窓口

郵便振替
〇一〇〇〇〇一四一六九九五七
加入者名
たすけあい募金
通信欄に「ネパール地震」とご記入ください